

6. 第1部：活動報告

「献血から血液製剤供給まで」

座長：

九州大学病院 遺伝子・細胞療法部 平安山 知子

① 「福岡県における血液製剤供給の現状」

福岡県赤十字血液センター 学術情報・供給課

児玉 修平

第29回 福岡県合同輸血療法委員会
日時：2026年2月5日（木）
場所：福岡県庁

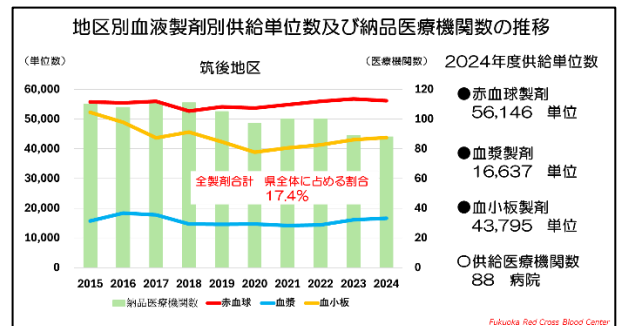
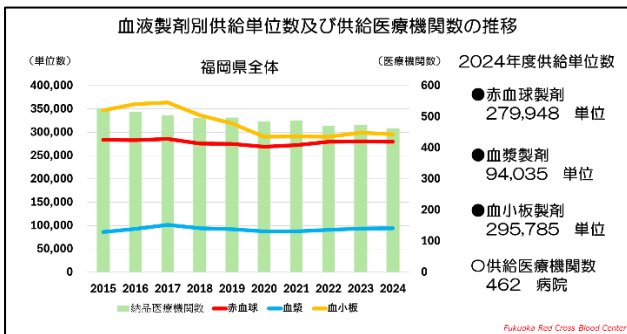
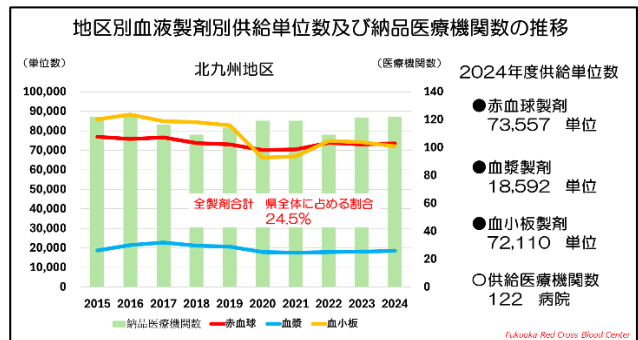
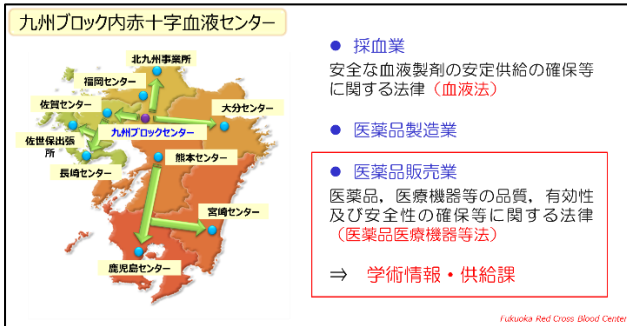
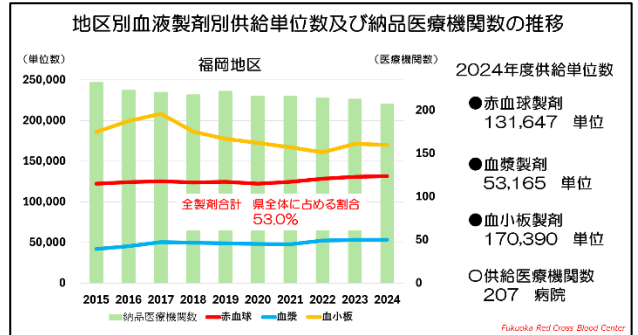
福岡県における血液製剤供給の現状

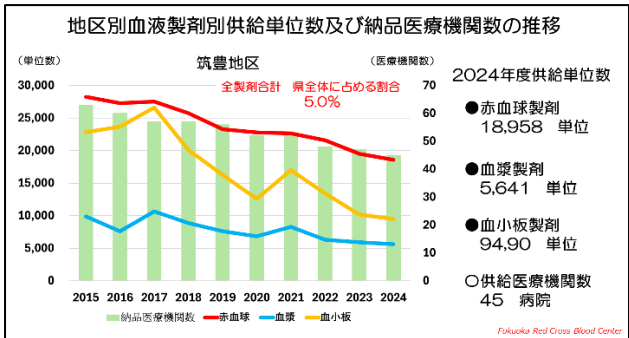
福岡県赤十字血液センター
学術情報・供給課 児玉 修平

年	供給医療機関	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤 (単位)
2015年	527施設	283,428	86,157	346,965
2024年	462施設	279,948	94,035	295,785
	65施設 ↓	3,480 ↓ (1.2%)	7,878 ↑ (9.1%)	51,180 ↓ (14.8%)

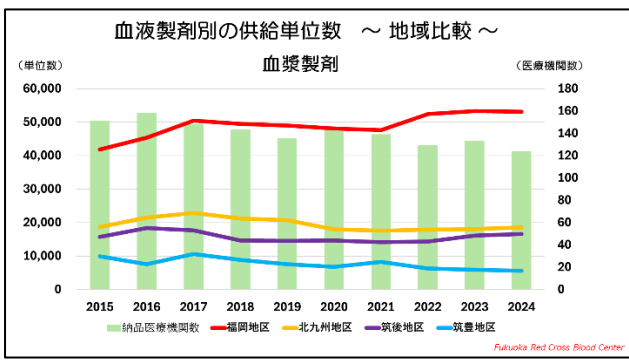
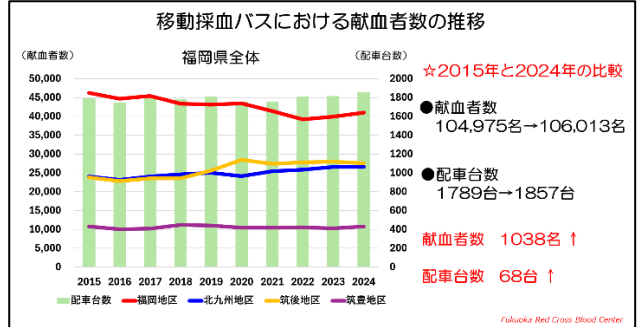
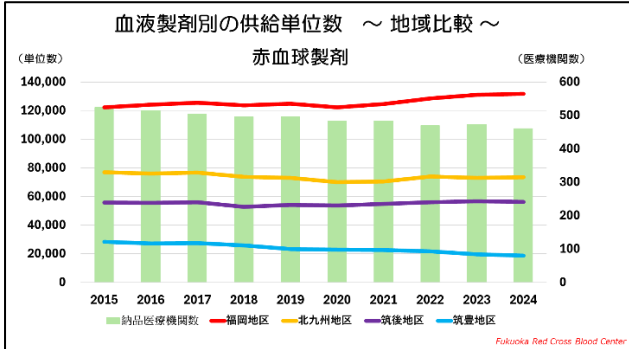
○ 供給医療機関数は10年間で65施設減少。
○ 赤血球製剤の使用量は10年間減少傾向になりつつもあるが、ほぼ横ばいの状態が続いている。
○ 血漿製剤は、2022年を境に増加傾向にある。
○ 血小板製剤については減少傾向にある。

Fukuoka Red Cross Blood Center

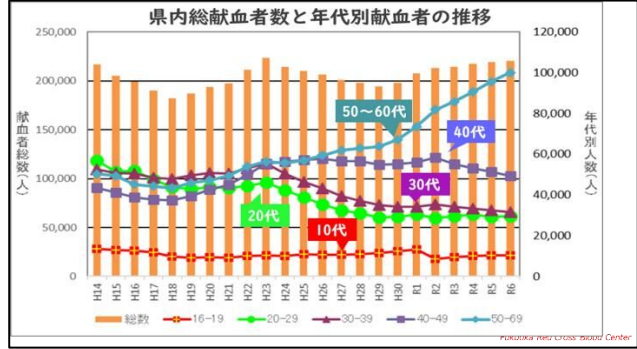
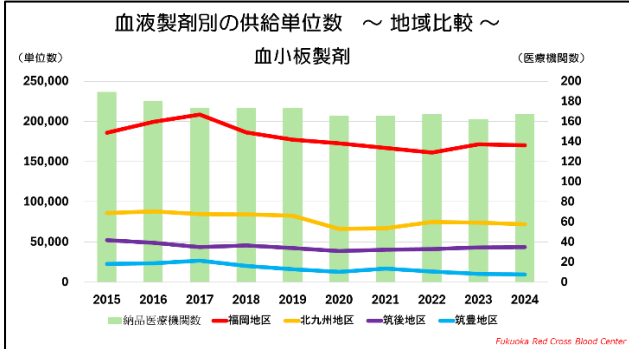




- ★ 福岡県内の供給状況 ★
- 赤血球製剤・血小板製剤は、横ばいの状況
 - 血漿製剤は、増加傾向
 - 血漿交換 大動脈解離の症例の増加
 - クリオプレシピテートの作製
 - 供給医療機関数は年々減少傾向
 - 急性期医療機関で治療後、転院先での輸血増加
 - 在宅輸血が増加傾向
- Fukuoka Red Cross Blood Center



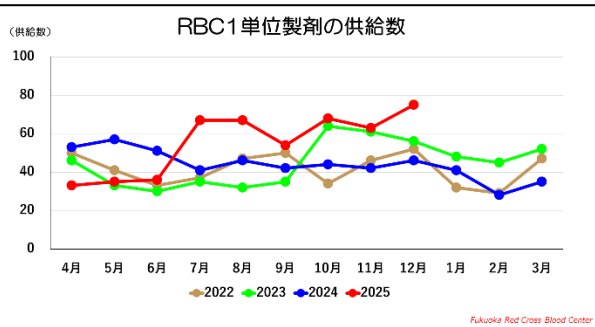
- ☆ 福岡県内の移動採血バスでの献血状況 ☆
- 10年前と比較して献血者数は増加傾向
 - 商業施設での献血者数が増加
 - 新型コロナウイルス蔓延以降、献血バスの配車台数も増加傾向
 - 福岡地区の献血者数は減少傾向
 - 各企業でのリモートワークの普及、増加
- Fukuoka Red Cross Blood Center



☆ 若年層への献血推進について ☆

- 50～60代の献血者が最も多い現状
- 少子高齢化の影響で献血可能人口が減少
- 高校での献血及び献血セミナーの実施
- 高校生（男性16歳/女性16～17歳）への献血推進が必要不可欠

Fukuoka Red Cross Blood Center



★ RBC1単位製剤の供給についてお願い ★

- 小児科領域の患者様への輸血
 - 高齢患者様への輸血
 - TACO：輸血関連循環過負荷の発症リスクの軽減
- 200mL献血由来 RBC1単位製剤の活用にご協力をお願いいたします

Fukuoka Red Cross Blood Center

おわりに

有限で貴重な血液を大切に取り扱い、患者さんにより有益で安全な輸血をお願いいたします。



Fukuoka Red Cross Blood Center

② 「福岡県における献血の現状と課題」

福岡県赤十字血液センター 献血推進課
森部 恵介

福岡県における献血の現状と課題

福岡県赤十字血液センター
献血推進課 森部 恵介

令和8年2月5日
福岡県赤十字血液センター

必要献血者数

輸血を必要としている患者さんは

日本全国で毎日
約**3,000人**

1年間で約110万人の輸血を受ける患者さんがいます。

2

必要献血者数

どのくらいの献血が必要かというと

毎日
約**14,000人**の
献血者が必要

3

福岡県内の必要献血者数

毎日
約**600人**

4